

各位

会社名 東京応化工業株式会社
代表者名 取締役社長 種市 順昭
コード番号 4186 (東証プライム)
問合せ先 広報IR部長 川田 哲也
TEL. 044-435-3000

TOK グループ中期計画についてのお知らせ

— tok 中期計画 2027 (2025 年度～2027 年度) —

当社グループは、2030 年に向けた長期ビジョン「TOK Vision 2030」からバックキャストで設定した新中期計画として「tok 中期計画 2027」(2025 年 12 月期～2027 年 12 月期)を策定しましたので、その概要を下記の通りお知らせいたします。

経営ビジョン

豊かな未来、社会の期待に化学で応える“**The e-Material Global Company™**”

tok 中期計画 2027 (2025 年度～2027 年度)の概要 “ Go beyond 27, Jump to the Future !! ”

1. 中期経営目標

定性目標

- ・先端レジストのグローバルシェア No.1
- ・TOK Vision 2030 を見据えた各事業分野のグローバルシェア向上
- ・新規分野における事業構築
- ・高品質製品の安定供給
- ・従業員エンゲージメント向上
- ・TOK Vision 2030 を実現する強固な経営基盤の構築

定量目標

財務目標(2027 年 12 月期)

連結売上高	2,700 億円
連結営業利益	480 億円
EBITDA	610 億円
ROE	13.0 %

非財務目標(2027 年 12 月期)

従業員エンゲージメント
+5.4 ポイント(2024 年比)
CO₂ 排出量(Scope 1 + 2)
27% 削減(2019 年比)
/3.5 万 t-CO₂ 以下

本中期計画では、当社グループの経営ビジョンである「豊かな未来、社会の期待に化学で応える“**The e-Material Global Company™**”」の実現に向け、6つの定性目標を設定しました。当社グループの柱となる「先端レジストのグローバルシェアNo.1」、「各事業分野のグローバルシェア向上」および「高品質製品の安定供給」を高水準で目指しながらも、「TOK Vision 2030」の実現に向けて「新規分野における事業構築」にも取り組んでいきます。また、これらを支えるための「強固な経営基盤」を構築し、当社グループの価値創造の原点となる「人財」に寄り添った「従業員エンゲージメントの向上」にも取り組んでいきます。これらの定性目標達成を目指す中で、従来の財務目標に加えて、当社グループ全体で取り組む2つの重要テーマ（『人的資本』、『環境』）について“非財務目標”として定量目標を設定しました。今回掲げた7つの重点戦略により、経営ビジョンの実現に向けた盤石な体制を築き、その先の姿である100年企業を目指し、当社グループ一丸となって化学の力で社会の期待に応えてまいります。

2. 重点戦略 ～7つの戦略を通じてSDGsの達成に貢献～

(1) 従業員一人ひとりが心身ともに安全安心に働ける環境を構築する

従業員全員が安全安心に働ける環境を構築し、従業員の幸福度向上を通じて企業価値を向上させていくことが必要不可欠である。そのため、「皆が生き活きと誇りをもって働ける」という企業像を実現するための環境構築を行う。

(2) 強固なサプライチェーンを構築する

いかなる市場変動にも即応できる供給体制の構築やサプライチェーンの最適化を加速し、当社グループを取り巻くステークホルダーから真に信頼される企業グループを目指す。

(3) マーケティング力の向上を通じて、顧客の深耕と開拓を進める

徹底した顧客目線を追求し、お客様に対応した技術の高度化や安定した量産体制の早期確立を進めるとともに、グローバルでのマーケティング体制の連携を強化することで、顧客が感動するイノベーションの提供を実現させていく。

(4) 先端技術を追求し、TOKグループ独自の技術を開発する

当社グループの強みである開発、製造、営業の三位一体を軸とした戦略を徹底し、技術トレンドと顧客のニーズを先取りしたロングランの研究開発を行い、社会の期待に化学で応えていく。

(5) 長期の研究開発と安定生産を実現する財務基盤を整備する

当社グループは超長期の視点から将来の成長の源泉を生み出す技術開発を継続するとともに、旺盛な需要に応える製品供給体制をグローバルで確立する必要がある。そのために必要な投資が持続可能となる強固な財務基盤を整備する。

(6) 新たな価値創造を見据えたデジタル基盤を整備する

デジタル技術を用いて当社グループの更なる成長を加速させ、デジタル人財の育成にも注力し、社内のデジタルリテラシーを高め、変化する市場環境に柔軟に対応できるデジタル改革を推進していく。

(7) SDGsに貢献できる企業文化を深耕する

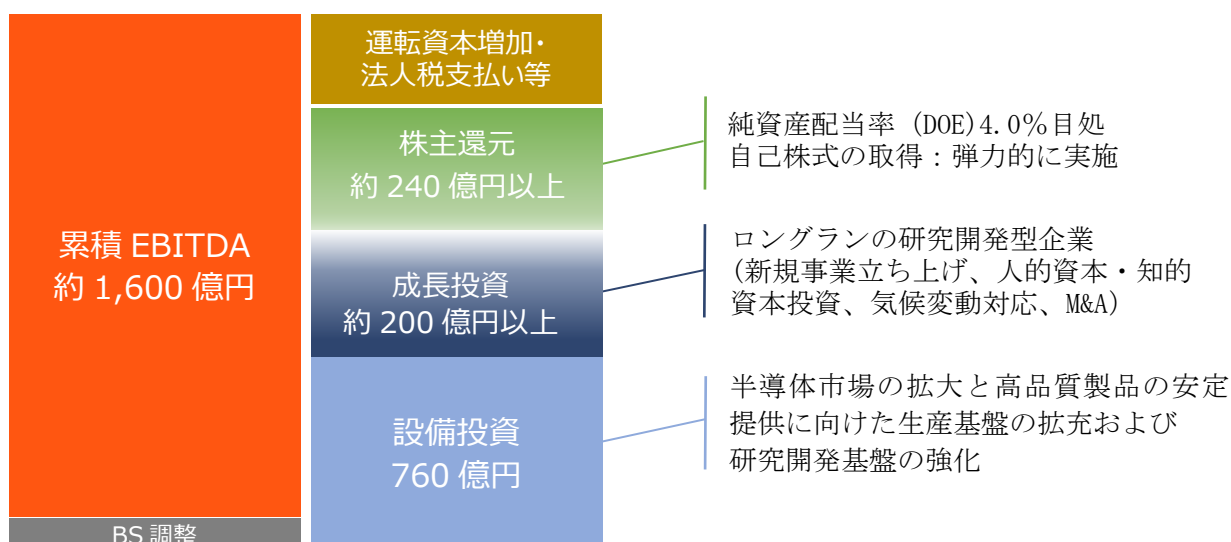
CSR教育の充実や安全な作業環境の確保、従業員の健康施策、環境負荷低減を推進し、当社グループの事業活動を通じてSDGsに貢献できる企業文化を深く追求していく。

3. キャッシュアロケーションについて

「投資」/「キャッシュリザーブ」/「株主還元」のベストバランスを追求

半導体材料の伸長により創出した EBITDA は、純資産配当率 (DOE) 4.0%を目途とする安定的かつ継続的な配当に配分すると共に、半導体市場の需要を見越した設備投資、成長投資に投下したうえで、自己株式の取得へ弾力的に配分

3 年キャッシュ・フロー計画 (イメージ図)



(ご参考として)

4. 2030 年ありたい姿 (TOK Vision 2030)

(1) 経営ビジョン

豊かな未来、社会の期待に化学で応える

“The e-Material Global Company™”

(2) ありたい姿

定性側面

顧客が感動するイノベーションを提供する

世界のステークホルダーから信頼される

高い技術力を育成し続け、グローバルで存在感を示す

SDGs に貢献することを意識し、企業価値を持続的に向上させる

皆が生き活きと誇りをもって働ける

定量側面

売上高 3,500 億円

EBITDA 770 億円

ROE 13.0 %

(3) 経営戦略

電子材料分野の深耕と開拓

100年企業に向けての事業の柱が立つ為の新規事業創出

グローバル人財の活用

生産拠点のリノベーションによる新たな価値の創造

社会的な重要課題（CSR、SDGs）への持続的な取り組み

財務基盤整備とその有効活用

デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進



以上